



協働ネットワークしながわ 平成30年度総会を開催



平成30年5月21日（月）に中小企業センターにて平成30年度総会を開催しました。

今年度の会員は団体会員が昨年より3団体増えて41団体に、個人会員は8名増えて33名になりました。平成29年度活動と会計報告、運営委員の改選が行われ了承されました。その後、会員の活発な意見交換が行われ閉会しました。

協働ネットワークしながわについては4頁にご案内があります。品川区をより住みやすくするため、皆様のご参加をお待ちしています。

平成30年度の活動計画は以下の通りです。



左から29年度恩田運営委員長、
中川原品川区副区長、遠藤協働・国際担当課長

| | |
|------------|---|
| 運営委員会 | 毎月1回程度開催 |
| 広報・品聞 | 21号 総会、シビックテック特集（本号） 22号 区民活動助成事業紹介 23号 子ども若者特集 24号 地域でつながるみんなの暮らし展（仮称）特集 |
| 見学会・研修会・講座 | 研修会 7月 IT時代の協働～シビックテックとは？ 見学会 来てほしい、行きたい ・ブックカフェ（戸越）・けめとも西大井・北品川まち歩き他 区民向け講座 29年度と同規模で実施予定 |
| 参加・関連イベント | 5月27日 ECO フェスティバル 12月 8日健康生きがいメッセ 9月 8日ふくしまつり 2月23日みんなの暮らし展 11月 9日子育てメッセ |

品川区におけるシビックテックの協働事例

社会の“困った”をITで解決するのがシビックテックです。

シビックテック（Civic Tech）とは、シビック（Civic：市民）とテック（Tech：テクノロジー）を掛け合わせた造語です。市民自身が、テクノロジーを活用して、市民の課題を解決する／生活をより便利にする、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいいます。

シビックテックを代表する存在となった非営利組織 Code for America が米国で活動を開始したのは2009年で、2013年5月に Code for Kanazawa が石川県金沢市で立ち上がったのを最初に、日本国内でさまざまな活動が広がっています。

シビックテックの活動範囲は多岐に渡ります。

今回はオープンデータ利活用の区と区民の協働事例（しながわっかそん）について、Code for Tokyo 代表の矢崎氏にご紹介いただきます。

●「オープンデータ」協働事業について

Code for Tokyo の矢崎です。昨年一年間を通じて行った活動の紹介をさせていただきます。「オープンデータ」と呼ばれている、自治体が持つデータを自由に活用することができる仕組みと、それらを課題解決につなげられないか、というのが大枠のテーマです。

●はじめは、保育園マップのご紹介から

都内の保育園問題を知ったメンバーが都内23区の保育園マップを作成し、品川区へメールで連絡し、意見交換させていただくところからお付き合いが始まりました。

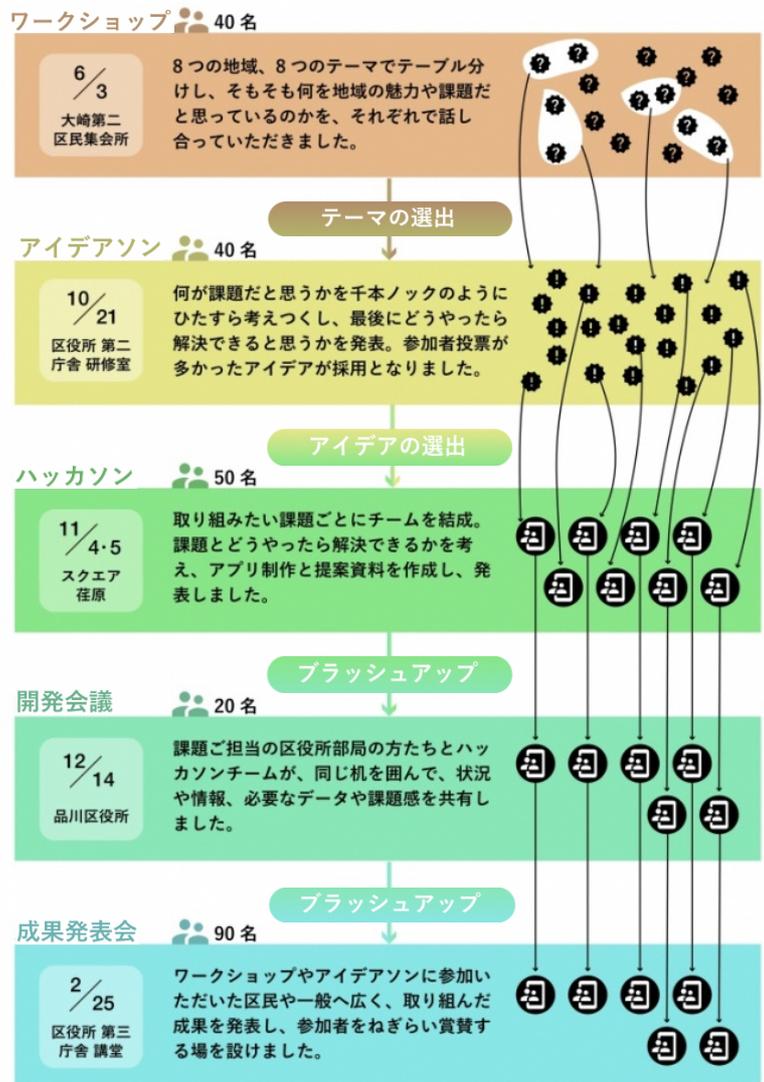
●協働事業のご提案

オープンデータの利活用をテーマにした協働事業が公募されていたので、これに応募しました。住民のニーズにあったオープンデータの公開と活用を促進するため、区と協働によるオープンデータ活用を踏まえたアイデアソンとハッカソンの実施を提案し、採択されました。

●ワークショップ（6月3日）

品川区に住む多様な顔ぶれの住民から、課題と感じていることはそもそも何なのかを浮かび上がらせ、定義することが大事だと考えました。本プロジェクトのゴールであるアプリ／ウェブアプリ作りのための解決すべき課題選定の参考にすべく、そのためのワークショップを企画しました。

（協働ニュース品間18号にこの記事があります。）



品間バックナンバーへのリンク

●アイデアソン（10月21日）

アイデアを短・中距離走のように出し続けるイベントをアイデアソンといいます。今回は、参加者自身が、身近な課題を発見することに重点を置き、課題を深掘りするため「課題に向き合う時間」を十分に設けることとしました。そのため、前回ワークショップの結果共有は必要最低限とし、ひたすら「課題に向き合う時間」を持ちました。その上で、どう解決するかという「手段を考える時間」は、イベントの後半に確保しました。

●ハッカソン（11月4・5日）

住民の方たちから出たアイデアのうち得票の多かったアイデアを、実現に向けて実際に作る場を設けました。2日間という限られた時間や人員ですべてを作ることはそもそもできないという前提で、この制約を逆手にとって、実現可能なサイズへ課題と解決法を考えることを参加者に意識してもらいました。小さく定義した課題及びその解決を目指す、小さくても稼働するアプリを作ることで、まずは課題当事者に使ってもらい、必要な機能を徐々に追加していくようなことを意図しました。メンター（助言者）にはものづくり系で多様なイベントを開催している、やまざき はるき氏にお願いをしました。

●開発会議（12月14日）

ハッカソンイベントの後に、成果発表会へ向けてフォローアップイベントを行いました。品川区情報推進課の協力で、ハッカソンチームのテーマごとに、区所管部課のご参加も得て、ハッカソンチームとの意見交換や情報共有の場となりました。

●成果発表会（2月25日）

はじめていらした方でもわかるよう、本年度の取り組み内容を時系列で紹介し、チームごとにプレゼンテーションを行いました。また、タッチ&トライと題して、ステージ上にテーブルを設置し、発表者と来場者がコミュニケーションできる場としました。特別ゲストとして多様なセクターを経験されている川島 宏一氏から、一つひとつのチームに対して丁寧なフィードバックをいただきました。



●まとめ

本協働は、初めてのことであり、一年に数回のイベントを行っただけで状況が一変するものではありませんが、徐々に変化が見られ始めています。公園マップアプリと商店街アプリ、（ハッカソン前から制作していた）保育園マップについては継続開発が見込まれています。協働事業の実績をこれからも深めていく中で、徐々に人の輪を広げていくことが大事だと考えています。情報推進課の皆さんからも、本事業について積極的なコミットをいただきました。イベント開催時にその場でフィードバックをいただきながら細かく方向修正できたこと、他部局との調整を前提としたオープンデータ化に前向きに取り組んでいただけたこと、開発会議でテーマごとに区の所管部課の方々に参加を調整いただいたことについて、感謝を申し上げたいと思います。



しながわっかそん
成果報告へのリンク

(Code for Tokyo 矢崎代表)

シビックテックについてもっとお知りになりたい方、協働ネットワーク主催の研修会に参加しませんか？（詳しくは4頁）

協働ネットワークしながわ 研修会

IT時代の協働～シビックテックとは？

ITの発展(IT革命は2000年前後)と、NPO活動の活発化(NPO法制定は1998年)とはちょうど時期が重なります。しかし、ITの発展とNPOの活躍は、うまく交差してきたのでしょうか。

そして、身近な暮らしに様々な変化をもたらし続けるITは、協働のあり方にも有用な変化を生み出すことができるのでしょうか。

シビックテックやオープンデータなど、ITの側から市民社会を描く試みや、新たな担い手が登場し始めている今、社会の変化に最も敏感であることが求められるNPOや市民活動に携わる人々は、それらの動きをどう扱えるべきか。

IT時代の協働について、自分たちが持つべき問いを見つけましょう。

- ◆ 日時 2018年7月11日(水) 18時30分～20時30分
- ◆ 会場 品川区役所第三庁舎5階 354会議室
- ◆ 参加費 無料(先着40名)
- ◆ 講師 原亮氏



Code for Shinagawa 一般社団モノづくり×プログラミング for Shinagawa 理事
1974年生。品川区出身。原小学校、伊藤中学校、三田高校、法政大学法学部政治学科卒。教材編集者、ITベンチャー、フリーランス等を経て、2016年よりエイチタス株式会社代表取締役就任。「共創」をテーマに掲げ、地域で自走する人や組織、社会を作る活動を展開している。総務省 地域情報化アドバイザー、中小企業基盤整備機構 人材支援アドバイザーなど歴任。

著書に「アイデアソン！」(共著/2016/徳間書店)など。

<申し込み> 下記事務局(協働推進係)へ、電話かメールでお申し込みください。
現在会員でない方は、お気軽にご相談ください。

ご案内

協働ネットワークしながわ について

協働ネットワークしながわは、どなたでも入れる会員制。施設見学会、学習会、情報交換会などを行っています。社会貢献活動をなさっている方、協働に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。また、協働ニュース品聞についての問い合わせも下記まで。

事務局連絡先：地域活動課 協働推進係

〒140-8715 品川区広町2-1-36

TEL：03-5742-6605

FAX：03-5742-6878

E-mail：chikikat-kyodo@city.shinagawa.tokyo.jp

21号編集責任者 杉本義雄
sugimoto@cts.ne.jp